

令和2年度第1回盛岡市緑のまちづくり会議

会議録 【概要版】

会議名	令和2年度第1回盛岡市緑のまちづくり会議
開催日時	令和2年7月17日（金） 9:30~12:00



出席者

氏名		分野
赤坂 環	欠	観光企画(まちの編集室)
大瀧 英知	出	景観(総合設計研究所東北事務所長)
金沢 滋	出	商工(岩手・木質バイオマス研究会顧問)
木村 敦子	出	デザイン(岩手アートディレクターズクラブ会員)
渋谷 晃太郎	出	学識経験者(岩手県立大学)
中村 正	出	環境(岩手県自然保護協会常務理事事務局長)
広田 純一	出	学識経験者(岩手大学)
八重樫 信子	出	公園活性化交流広場
若菜 千穂	出	市民団体(いわて地域づくり支援センター事務局長)
高濱 康亘	出	公園管理者(都市整備部長)

■事務局

公園みどり課：富樫課長，藤村課長補佐，佐藤計画係長，佐々木文化財主査，熊谷技師，宮田技師，田畑主事

配布資料

■会議次第

■懇話会委員名簿

■懇話会設置要領

■議事説明資料

資料1（中央公園整備事業について）

資料2（第二次盛岡市緑の基本計画案について）

資料3（緑の基本計画施策体系について）

資料4（市民アンケート要約について）

資料5（愛護会アンケート要約について）

要旨

報告事項 公募設置管理制度（Park-PFI）における整備事業の状況について

座長：当初計画を承認しているため，その後社会情勢の変化によりある程度の変更はあると思うが，当初計画の本質的なところまで変更となるようであれば承認の取り消しもありうるのではないか。

委員：運営や企画を行う形態の一部の変更など何か変化があるようであれば，それは第一審査のとおりと言えるのか。協議というのが必要となるのではないか。

委員：注目されている事業なので非公開の情報と思われないように，再報告とするなど審査員に対して説明する場を設けた方がいい。

委員：プロセスをできるだけオープンにしていけばいい。情報はその都度広報していく必要がある。

議事第1号 第二次盛岡市緑の基本計画について

○緑の将来像と前計画の実績について

委員：整備面積，整備目標が都市公園施行令で定められている一人10㎡以上を達成しているが，クリアすれば良いという事ではない。十分な量の緑があると言えるのか考える必要がある。

座長：実績の数値が目標に全く達してないものもあるが，対象やアンケートの設問の文章によって変わってしまうので，一度確認したい。単純には比べられない。

委員：質というのは何なのかをきちんと整理すべき。

委員：質も量も満足か不満か聞かれば満足の方が高い。次にどちらかと言えば質の方が量よりも不満がちょっと高いかなくらいの触れ方をした方が良い。市民参加が課題とあったが、維持管理に対する市民の窓口がないとか、選択肢がないからではないか。

委員：自由記述で出てきたものは、基本的な成果として胸に刻むべき。盛岡の緑はどうあればいいのかという市民の声を受け止めて、作業をすすめていけば、ちょっと違う形になるのではないか。

委員：今の意見を踏まえ今回初めて行ったアンケートという事でプレスの方に投げ込んでみてはどうか。

○緑の基本計画の施策体系について

委員：盛岡市民の緑に対する関心は高い。関心の高さを活動や情報のとれる機会に結びつけられていないところが課題。

委員：緑に関して情報の的確な発信というだけではなく、機会やツールを含めて客観的な発信を目指してもいい。賑わうというのは、お金を落とす、産業するイメージだから言葉の使い方はもう少し考えないといけない。

委員：市民協働という事をもっと打ち出してほしい。今回から人と人との繋がり場のとしての公園や緑の見方という視点を一つ入れるというのはどうか。そういった公園をこれから生み出していくという方針を新しい視点の言葉で入れればいいのではないか。

委員：今回の計画でも維持管理を地域に頼っている所があるが、これで上手くいくか。市として担い手育成の要素をある程度準備して最初の取りかかりを作る事が必要。

委員：アンケートで満足度が高いというのはその通りだが、実際の質を高めるといのは実行される人達がいるか、それを裏付ける予算があるかサポート体制があるかという事なのではないか。愛護会の活動の部分も上げ底を進めないと本当の質の向上に繋がりにくい。

委員：防災という観点からこの公園が存在する意味や、空間としてそこにある意味という視点もグリーンインフラの考え方に近いものもあるじゃないかと思う。

委員：もともと緑のマスタープランでどのように配置されてきたかも大事な要素。

委員：市の防災計画を下敷きにしてきちんと書いた方が良い。

委員：1枚目のグリーンインフラの地球環境問題の顕在化というのは何が問題なのかというが書いていない。アンケートだが、利用頻度のところで30～40代の子育て世代が多いのは子供が使うという事なので気を付けて欲しい。2枚目の基本方針1、適正な量ではなくて、緑を適正に管理して～と書けばいいのではないか。盛岡はそんなに減らないと言われているが、空き家問題やいろんな都市計画上の問題が出たときに、空地を積極的に空地化したときに新しい考え方の空地、緑地みたいなものも出

てくるかもしれない。コロナ対策でグリーンリカバリーという言葉が使われるようになって持続可能な将来にむけて投資をする考え方がでてきた。新しい防災拠点としてもっていければいい。

委員：資料2の素案8ページで、計画改定の背景について述べているが、10年間使っていくわけなのでICTやAIの進展ところを入れた方がいい。今の戦略事業だとAIとかICTがすこし触れられなくなっている。技術活用の部分をもっとのせたい。

座長：今の大学生の時代だと生物多様性は当たり前の言葉であるので、全体として緑の基本計画では言葉の使い方が少し古いかと思う。

委員：基本方針2の方で緑の利活用のところで意識の向上、的確な発信、規制の緩和という順番だが、2枚目にいくとなぜか情報発信が最後に来ている。なぜ具体的な施策になると最後になるのか。活性化プランなどいくらやっても情報発信がきちんとできていないと何も意味がないので一番上でもいいのでは。

委員：情報発信の拡充は継続事業というよりは、新規事業で新しいやり方で進めた方がいい。

委員：できれば毎年数値化して見えるもの、上昇すればこういう意味があるという共通事項としての数値目標にしていけば、緑のまちづくり会議で計画を常に監視していく。ぜひ、アンケートを毎年とるわけにはいかないの、満足度ではなく、毎年とれる指標にしていだければと思う。また、基本理念の下に協働による緑の保全と活用という文章を疑問に思っていた。例えば皆で緑の可能性を拡大させるとか緑の未来を広げるなどの目標を掲げて明るい表現にして、皆で緑の色んな機能が使っていけるような、やわらかい表現でいい。

座長：従来の計画との継続性もあるため言葉遣い、表現も継続して残しているのだが、思い切って発展的に変更してもいいと思う。公園愛護会ルールの補完について、行政+公園愛護会という仕組み自身が機能不全になってきている気がするため、新たな仕組みにチャレンジするような内容があっても良い。公園愛護会が無くなるのは困るので、支援+αが欲しい。

委員：質というのはどういうものか、さらに議論したい。一体何をもって質が高いと言えるのか議論が必要。市民協働では福祉や色々な部署と連携し、一緒に情報発信するなど強く出しても良いと思う。

座長：様々な分野で市民協働が挙げられているが、なかなか行政は変わりにくい。民間を含めてどんどん変えていった方がいいのではないか。どうしても我々は何でも行政という感覚があるので、いい意味で期待しない方がいいと思う。